

シグマ研究委員会核データ専門部会  
核データ評価コードワーキンググループ第2回会合議事録

日 時 昭和55年10月22日(水) 13:30 ~ 17:30  
場 所 原研東海研 322号室  
出席者 浅見(哲), 川合, 浅野, 松延, 八谷, 山越, 中川, 水本, 菊池,  
大沢, 五十嵐  
オブザーバー : 柴田

配布資料

1. PREANG 入力表
2. RESCAL 入力説明資料
3. CAPTR1 入力表
4. DWUCK4 入力表
5. DISD 入力表
6. CAMEL 説明資料
7. CHUCK2 入力表

議 事

I. 前回議事録確認

議事録にある preequilibrium model code PREANG を入手し, FACOM-M200 で使用可能になっていることが報告された。

II. 作業状況報告

GNASH の状況について浅見氏から大要以下のような報告があった。

GNASH の report に添付されているプログラムリストを各担当者に送った。プログラムの整備は核データセンターの成田氏に依頼して FACOM-M200 で使えるようにしている。中間入出力用のサブルーティンが FACOM のものと異なるので入れかえたりした。 $T_e^{(f)}$  はカードからもテープからも入

力できるが計算部分として組み込むことも考えられる。近々にサブワーキンググループを開いてこれらの問題を検討したい。GROGI との関連も検討したい。

他のコードも含めて、解読作業は進行していないので、各コードの問題点はコードを使ってみて探すことにした。

### Ⅲ. コード入力説明

PREANG, RESCAL, CAPTR1, DWUCK4, CHUCK2, DISD, CAMEL について五十嵐, 柴田, 水本, 大沢の各氏から資料に基づいて説明があった。

CAPTR1 と DISD はほとんど同じであるが, CAPTR1 はエネルギー 1 点づつについての計算きりできないのに対して DISD は多数点でできる。また, CAPTR1 は遷移先のレベルについて和を取れるが, DISD ではできないなど一長一短である。両者の良い所を取って改訂したい。そのとき GUPITOR も検討してみる。積分法と出力についても工夫してみる必要がある。

### Ⅳ. 今後の計画

各コードを使ってみて, それぞれの長所, 短所を探っていくことにした。担当は以下のようにする。

(1) RESCAL : 五十嵐

PREANG : 五十嵐

(2) CAPTR1, DISD の統一 : 水本, 柴田

(3) GNASH の使用と GROGI との関係 : 川合, 八谷, 山越, 浅野,  
松延, 浅見

(4) CHUCK2, JUPITER1, ECIS, ADAPE :

中川, 菊池, 五十嵐

(5) CAMEL : 大沢

その他

Fe, Ni の評価に JUPITER1 を使って問題点を探してみたい (菊池)

ECISが通っていないので、これをFACOM-M200で通るようにする。

(中川)

などの計画が提案され、その線で作業を進めることになった。

HAUSER - V の請求を菊池氏が行う。

5. 次 回

12月12日 東海研